アイディアの宝船

Ja-Net 季刊ジャネット No. 59 別冊

みんなの日本語初級+対話を中心とした活動
「知っている」から「できる」へ

◆東京外国語大学 多言語・多文化教育センターフェロー
吉田聖子

2011年10月25日発行
スリーエーネットワーク

はじめに

2011年1月に文化審議会国語分科会より出された『「生活者としての外国人」に対する標準的なカリキュラム案　活用のためのガイドブック』*では、生活者としての外国人に対する日本語教育の目的として、生活場面と密着したコミュニケーション活動を可能とする能力を獲得することが求められるとされています。同時に、各地域の実情に合わせて実施される日本語教育現場の活動方法として、「対話による相互理解の促進」と「行動・体験中心の教室活動」が取り上げられています。では、「対話による相互理解の促進」と「行動・体験中心の教室活動」とは具体的にどんなことを指すのでしょう。

* http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/kyouiku/nihongo_curriculum/pdf/curriculum_guidebook.pdf

対話を中心とした活動とは

「対話中心の活動」は、普段のおしゃべりとよく似ています。日本語教室に集う外国人参加者と日本人ボランティアが、対等なヨコの関係で日本語を使ったコミュニケーションをし、人間関係を築き、相互理解を深めていきます。外国人参加者は、このプロセスを通して日本語を身につけるのです。
(『外国人と対話しよう！にほんごボランティア手帖』(凡人社刊　吉田聖子他共著) より)

対話を中心とした活動のポイント

1. ネタは生もの：
   練習のために考えた話題や一般的な話、架空の話ではなく、自分が話したい、話す価値のあること
2. 居心地のいい場所づくり：
   先生と生徒ではなく、対等な関係を結び、いっしょに町をつくる仲間づくり
3. 参加者同士が日本語でコミュニケーションする：
   聞き上手になる・わかりやすい話し手になる

外国人参加者と日本人ボランティアが、日本語を使ってコミュニケーションをし、人間関係を築き、相互理解を深めていきます。そこで交わされるのは、架空のことばではなく、その人の生活や人生にとって意味のあることばです。外国人参加者は、このプロセスを通して、日本語を身につけるとともに、地域で生きていく力をつけていくのです。また、日本人参加者も、外国人とのコミュニケーションの方法を学んだり、外国人参加者が抱える課題から、地域を見直したりすることができます。日本語教室は、人間関係づくり、地域づくりの場なのです。

対話中心の活動を取り入れた活動記録

この教室に来た学習者は入門から上級までレベル分けがされていますが、学習者の希望によってはほかのグループに移動することも出来ます。入退会は自由なので、絶えず、だれかが新しい友達を連れてきます。以下にご紹介する活動記録は少人数のグループ活動を行っている日本語教室の話です。毎回ボランティア1人と3~6人の学習者が参加します。どのグループもお馴染みさんと初めての参加者が混在しています。

ここで取り上げたグループは読み書きよりも、「話すこと」に興味のある人の集まりです。この日の参加者は初級後半から２級合格レベルくらいの人たちです。発話力と学習経験は必ずしも一致していません。参加者は『みんなの日本語初級』をボランティアと勉強したことがあります。記録は２時間の活動のうちの30分間です。

活動中はいつも机の中央にA4判のメモ用紙が置いてあり、みんなで自由に使います。大きなホワイトボードなどは使えません。各自がノートや電子辞書を使っていますが、それ以外にテキストをバッグに入れている人もいて、以下の記録に登場するパクさんのように必要があると引っ張り出します。

テキストは、ある時は辞書になり、ある時は表現や文型を確認するために使われ、なかにはお守りのようにただ持っているだけ、という人もいます。必要に応じてだれかにテキストを見せてもらうことはあっても、コピーを使用することはありません。

以下、活動の例は学習者が自分自身の体験を話しながら、仲間の協力でより適切な表現をみつけ、自分の言いたいことを、気持ちに合った日本語でコミュニケーションしていく様子です。パクさんは、他の参加者が買い物やスイミングで楽しく過ごした週末に、自分が

どんなに大変だったか、また、それでも今日わたしはここに来たんだ、ということを仲間に理解してもらい、満足した様子でした。

活動記録

【活動のねらい】学習者の話題を使って既習文型を整理・意識化し、使える表現を増やす。

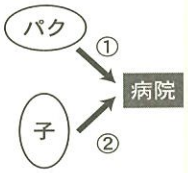
【ポイント】話題は学習者の実体験。

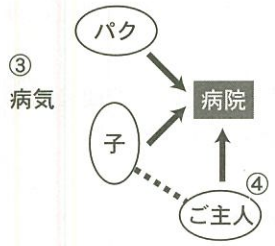
日本語力に差のある複数の学習者間の対話を生かし、ボランティアはサポート役に徹すること。

【背景】 東京都新宿区内の日本語教室。
毎週火曜日　10：00〜12：00
ボランティア１人に学習者３人。

【参加者】 パク：　韓国の主婦30代前半、帯同家族、慎重派
チェ：　韓国の主婦40代前半、帯同家族、リーダー型
ワン：　台湾の主婦60代、日本人配偶者、超真面目
吉田：　わたし（筆者）、日本語ボランティア

【活動記録】

状　況	活　動	わたしの頭の中
パクさん、はっきりしない。ことばが出てこない様子。	**パク：** 子どもが病院、行かない↑、行かさせ〜（語尾がだんだん小さくなる）(−.−;)	書きとめながら、パクさんガンバレ。
	吉田： え〜、どうしたの。	
チェさんがパクさんの話に割り込む。	**チェ：** パクさんの子ども、病気。	あっ、まただ、早くパクさんに戻さなきゃ。
	吉田： えっ、そうなの。	
	チェ： だいじょうぶ、かぜです、だいじょうぶ。	
病気だということがはっきりした。	**吉田：** そう、かぜひいたの。パクさんの子どもさん、男の子だっけ、かぜ引いたの。 どうした、病院に行った、行かなかった？	
	パク： 行きました。子どもも？　いっしょに、行きました。	子どもも？ 「も」っていうことは、ほかにも誰か病気だった？　それとも…。う〜ん。わからない。もう少し話してもらおう。
吉田はパクさんの表情を確認しながら、他の学習者の様子も目の端にいれつつ、自分の理解がズレていないか確認。	**吉田：** 子どももいっしょ？ パクさんは病院へ行きました。子どもも病院へ行きました。パクさんは子どもを病院へ連れて行きました。	
(パクさん、困った顔)	**パク：** 連れて行きたく…、〜ないです。	
チェさんが、韓国語でパクさんにあなたの日本語はおかしいと言っている。	**チェ：** ○＄＆＃〜！｜￥＋＆“￥	あ〜、またチェさんだ。 パクさんの状況はパクさんにしかわからないから、ちょっと待ちなさい。ワンさん、そうだよね。OK。
	ワン： それ、へんよ。息子が行きたくない、でしょ。	
吉田、全員に見えるように机の真ん中にA4判のメモ用紙を置く。	**吉田：** ちょっと、待ってえ。	
吉田、ゆっくり相手の顔を見て確認しながら、メモ用紙に図を書いていく。	 (「→」①を書きながら）パクさんは病院へ行きました。 (「→」②を書きながら）子どもも病院へ行きました。パクさんは子どもを連れて病院へ行きました。	

	パクさんは子どもを病院へ連れて行きたくなかったです。 子どもは？　病院へ　行きたかった？　行きたくなかった？ **パク：** 息子は行きたくないです。 でも、病気がありますから、行ってほしいです。	子どもが病気なのに、その子を病院へ連れていきたくなかったのはなぜ？ひょっとして、子どもが嫌がっていたとか。
吉田、黙って図に「病気」（③）と書き加える。		
	ワン： 病気はだれですか？ **パク：** わたし。と息子。（図を指差しながら） **チェ、ワン：** え～っ!! **チェ：** だれが病院へ行きましたか。	そうそう、自分たちで確認して。 あ、パクさんも病気だったんだ。
吉田、図に「ご主人」（④）を書き足しながら。 パクさん、得意顔。	**パク：** 主人と息子。 **吉田：** パクさんは病気でした。息子が病気になりました。 パクさんは息子に病院へ行ってほしいです。でもパクさんは、自分が病気だから連れて行きたくないです。ご主人に頼みました。	ご主人が病院に連れて行ったんだ。 そうだったのか。 パクさん、それが言いたかったのか。 聞いてみないとわからないなあ。
パクさん、ノートを確認しながらバックの中からテキスト（『みんなの日本語初級Ⅱ本冊』）を取り出し、48課練習A2を開け指差す。	部長は　ミラーさん／かちょう／すずきさん／むすこさん　を　アメリカへ／会議に／３日間／旅行に　しゅっちょうさせました。／しゅっせきさせました。／やすませました。／いかせました。 **パク：** （188頁練習Ａ２を指して）これでいいですか。 **吉田：** 言ってみて。 **パク：** わたしは子どもを病院へ行かせました。 **ワン：** どして、あなたのご主人行きましたか。パクさんの病気はひどいでしたか。 **パク：** ちがいます。トイレにたくさん行きますから、ダメです。（以下省略）	（後日、パクさんが自分で言うまで、もう少し待てなかった自分を反省）

メモ用紙

- パクさんは 病気です。
- 息子も 病気になりました。
- 息子は 病院へ 行きたくないです。
- パクさんは 息子を 病院へ連れて 行きたくないです。
- パクさんは 息子に 病院へ 行ってほしいです。
- パクさんは 息子を 病院へ 行かせたいです。
- パクさんは ご主人に 息子さんを 病院へ 連れて行かせました。

日本語ボランティアは活動中、学習者の話を聞きながら、母語話者としての感覚で違和感があったらメモします。ときにはテーブルの上のメモ用紙に聞き取ったことを書き、その横に大きく？マークを書いて見せます。また、聞き返したり、要約したり、言い換えることで、相手の発話の意図を確認し、同時にほかの学習者の理解がずれていないか、確認していきます。

この日は、活動の最後に、話の中に出てきた7つの表現を整理して書き出しました。それを見たり、書き写したりしながら、学習者同士は母語も交えて話し合いながら、さらに理解を深めます。ときにはこの段階で、ボランティアの理解が間違っていたことを指摘されることもあります。

パクさんの場合、以前テキストを使った学習で、知識として「行かせました」は理解し、例文を作ることもできましたが、実際にその表現を使ったことはありませんでした。

自分自身の体験と結びつけて対話の中で使うことで、「行かせました」は知識から「自分が伝えたい気持ちを表現する意味のあることば」に変わったと言えます。パクさんにとって教科書を有効に楽しんで使うことが、さらなるモチベーションの向上につながったと言えます。

『サードカルチャーキッズ 多文化の間で生きる子どもたち』
翻訳者、日部八重子氏・嘉納もも氏　講演のお知らせ

京都女子大学　現代社会学科　公開講座

国際移動する家族と子どもたち－サード・カルチャー・キッズ（Third Culture Kids）って何？－

内容　本書翻訳者講演タイトル

日部八重子氏「『サードカルチャーキッズ』を翻訳したい！」

嘉納もも氏「元帰国子女・国際結婚・TCK」

他

日時：12月3日（土）　会場：京都女子大学　J525教室

詳しくはhttp://www.kyoto-wu.ac.jp/chiikikoryu/koza/201112.htmlをご参照ください。

著者：デビット・C. ポロック
ルース=ヴァン・リーケン
翻訳：嘉納もも、日部八重子
四六判 340頁、1,680円（税込価格）
ISBN978-4-88319-526-8

特別連載 教科書活用講座

ホームページに教科書活用講座を開設しました！

http://www.3anet.co.jp/seminar/

当社発行の『アカデミックスキルを身につける聴解・発表ワークブック』『日本語上級話者への道 きちんと伝える技術と表現』『留学生のためのここが大切 文章表現のルール』『みんなの日本語 初級』について、使い方のポイントを具体的に解説しています。

■『アカデミックスキルを身につける聴解・発表ワークブック』

http://www.3anet.co.jp/seminar/workbook.html

講 師：犬飼康弘（㈶ひろしま国際センター研修部日本語常勤講師、『本書』著者）

● アカデミック・スキルを身につけるために

第１回　聞いてメモを取る
第２回　発表
第３回　質疑応答
第４回　教師の役割・フィードバック

■『日本語上級話者への道 きちんと伝える技術と表現』

http://www.3anet.co.jp/seminar/jokyuwasha.html

講 師：伊藤とく美（岩谷学園テクノビジネス専門学校日本語科主任教員、『本書』共著者）

● 上級話者になるための授業と学習

第１回　会話の授業 準備編
中級話者から上級話者になるために―評価のポイント
第２回　会話の授業 実践編１
アイスブレイク・ペアワーク・グループワーク・教師の役割
第３回　会話の授業 実践編２
中級レベル学習者のクラスの授業例
第４回　会話の授業 実践編 3-1
中上級レベル学習者クラスの授業例
第５回　会話の授業 実践編 3-2
中上級レベル学習者クラスの授業例
第６回　『日本語上級話者への道』教科書編

■『留学生のための ここが大切 文章表現のルール』

http://www.3anet.co.jp/seminar/bunshohyogen_no_ruru.html

講 師：筒井千絵（フェリス女学院大学留学生センター講師、『本書』共著者）

● 日本語、作文指導 Q&A

第１回　中級に入った学習者（留学生）の作文指導
第２回　『留学生のためのここが大切 文章表現のルール』10 課を例に本書の授業での具体的な使い方
第３回　実際に学習者に作文を書かせた場合、授業はどのように組み立てればいいか
第４回　読み手を意識して書くときに大切なこと

■『みんなの日本語初級』

http://www.3anet.co.jp/seminar/minnasyokyu.html

講 師：木戸恵子（目白大学留学生別科非常勤講師、元（財）海外技術者研修協会（AOTS））

●『みんなの日本語初級』を使った初級日本語の教え方

第１回　『みんなの日本語初級』の構成と基本的な教え方 *NEW*
次回、第２回は「練習問題を作ってみよう」（10 月 31 日掲載予定）

Ja-Net 季刊ジャネット　No. 59 別冊

スリーエーネットワークという社名は、アジア（Asia）、アフリカ（Africa）、ラテン・アメリカ（Latin America）のいわゆる発展途上国の多くが存在する三つの地域をネットワークでつなぎ、相互理解と友好の促進を図ろうという趣旨をシンボライズしています。

2011年10月25日発行
● 発行人　小林卓爾
● 発行所　（株）スリーエーネットワーク
〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-6-3 松栄ビル
営業広報部 Ja-Net 編集室
TEL 03-3292-6193　FAX 03-3292-6194
http://www.3anet.co.jp/
● 印刷　日本印刷（株）
© 2011 by 3A Corporation　Printed in Japan（禁無断転載）